

3歳児



3歳児 自分でできるよ

発達の特徴

自分でできることは自分でやってみたい。そんな気持ちが湧いてくるのが3歳児です。

自分と同じようなことをする同年代の友達のことが気になり、一緒にすることがしたくなるけれど、自分のしたいことを遮られると、腹が立ったり、悲しくなったりするなど、複雑な思いを体験します。こんな気持ちの揺れを一つずつ大好きな大人に受け止めてもらうことで、自分と異なる友達の存在に思いを寄せるようになっていきます。友達の存在が心を育てる第一歩です。

運動面でも手足の協応動作、ケンケンやよじ登りなど、目の前の目標に向かって、全身を操作して、ダイナミックに動くことが楽しくなります。同時に、はさみや折り紙など、「～しながら～する」ことができるようになり始めます。

「昨日の続きをしようかな。これ前にしたこともあったな・・・」などと、過去の記憶が積み重なってくることも増えていきます。

大切にしたい保育の課題

- ・「～したい」という思い（“意欲”）が高まる時期なので、全身で楽しさが味わえる素材との出会いがとて効果的です。感触を味わいながらも、見立て遊びを一人一人がたっぷりじっくりできるように季節に応じた素材を活用して、五感を通した体験が広がるような教材の研究に園全体で取り組みたいものです。
- ・着替えをはじめ、できることは自分でしたいと強く感じています。手伝ってしまうと、機嫌を損ねることもあるので、子どもが、“自分でできそうだ”と思ったことは、まず見守り、できたときには丁寧に認め、自信につながるようにしましょう。できなかったときは、途中まで手伝って、自分でできそうなところは残しておきます。意欲が育つ大きなチャンスを逃さないよう、少々時間が掛かっても、待って見守りましょう。
- ・食べ物の好き嫌いも出てきますが、盛り付けや調理方法を変えたり、一緒に調理したり、「これを食べると～ができるような強い体になれる」などと分かりやすい目標をもてるようにしたりするなど、ちょっとした工夫が食べる意欲を生みます。栽培活動を通して、育てた野菜への愛着心が食欲につながっていくこともあります。
- ・「自分で自分で」「友達と一緒に楽しい」といった気持ちを大事にすることが、今後の成長に影響すると家庭に伝えたいものです。家庭と園とが、生活習慣で大切にしているポイントを共有したり、同じ絵本や歌を楽しんだりすると、園と家庭での生活がつながり、園で安定して過ごせるようになります。園での様子や人気の歌、手遊び、園で大事にしていることなどを具体的に丁寧に伝え、園と保護者とが一緒に子育てを楽しめるようにしていきましょう。

「わくわく・のびのび・いきいき」育つために —発達をふまえた関わり方—

自分でしたい意欲を大切に

誰かが積み木の片付けを始めると、一人一人が自分で運ぼうとします。自分でしたい意欲を大切にして、運びやすい大きさ、出しやすい位置、準備や片付けが自分でできるような環境の工夫が必要です。“ここをもつと運びやすい”“友達にぶつからないように並んで待つ”など、安全に意識が向けられるよう繰り返し伝えましょう。



タイミングよく認めよう

着替えや排泄、手洗い、うがい、箸での食事など新しいことが少しずつできるようになってきます。友達の様子を見ながら、自分もできたら認めてほしくなり、認めてもらおうと、「じゃあ次もやってみよう」とチャレンジするようになります。「見て見て」コールには、できるだけそのタイミングで受け止めたいものです。



友達とのつなぎ手に

砂、水、泥など変化が楽しめる遊びは、思い切り体を使うので、心が伸び伸び開放され、言葉が自然に出てきます。「〇〇ちゃんと一緒にして楽しかった」「明日も〇〇ちゃんと続きがしたい」といった、友達とのつながりも生まれます。うまく気持ちが言えないでいたり、相手の気持ちに気付けないこともあったりするので、友達の思いを感じられるような、さり気ない保育者の関わりが大事になります。



| 期／月 | | 3歳児 I期（4月～5月） |
|--------|------|---|
| 期の特徴 | | 安心できる人やものを見つけて過ごす中で、新しい環境に慣れていく時期 |
| 子どもの姿 | | <ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活や環境に、期待とともに不安や緊張、戸惑いを感じている子どももいる。 ・生活の流れが分かってくると、保育者と一緒に少しずつ身の回りのことを自分でしようとする。 ・園の玩具、遊具や保育者のしている遊びに興味をもち、自分の好きな場やしたい遊びを見つけて遊ぶようになる。 |
| ねらい | | <ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ生活の仕方が分かり、安心して過ごす。 ・先生と一緒に身の回りのことをしたり遊んだりして親しみをもつ。 ・玩具や遊具、身近な自然に興味をもち、気に入ったものを見つけて遊ぶ。 |
| 経験する内容 | 健康 | <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱、排泄、手洗い、食事など身の回りのことを先生にしてもらったり、一緒にしたりする。 ・戸外で遊ぶ心地よさを感じる。 |
| | 人間関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・継身近な先生や気になる友達の顔を覚え、一緒に過ごす楽しさを感じる。 ・新身近な先生に親しみをもち、安心して過ごす。 |
| | 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育室や園庭に慣れ、自分のしたいことをしたり、好きな場所で遊んだりする。 ・春の自然の中で遊び、草花や小動物に触れる。 ・いろいろな玩具や遊具に関わり、使い方や遊び方を知る。 |
| | 言葉 | <ul style="list-style-type: none"> ・先生の話に興味をもって喜んで聞こうとする。 ・絵本や紙芝居を喜んで見たり聞いたりする。 |
| | 表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いやしてほしいことを表情や仕草で表す。 ・知っている歌を歌ったり、簡単な手遊びを喜んでしたりする。 ・思いのままにかいたり、つくったりすることを喜ぶ。 |

<保育のポイント>

- ☆安心して過ごせるよう「ここは楽しい場所なんだ」という楽しい雰囲気を感じられるようにする。
- ☆月齢差、不安度、家庭の環境、生育歴などに配慮し、一人一人の気持ちや思いを受け止め、毎日安定した気持ちで生活できるようにする。
- 保育者が率先して遊びのモデルになり、自分の気に入った遊びが見つけられるようにする。
- 新しい環境で、自分の生活スペースや、ものが分かりやすいように個人のマークを付けたり、表示を工夫したりする。
- その子なりのペースで繰り返し楽しめる遊びや、自分の力量に合った玩具や遊具が選べるように用意する。

<家庭との連携>

- ・1年間のクラスの方針を知らせ、保育の中で大切にしたいことを伝える。
- ・保護者が安心できるように子どもの様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりしながら、コミュニケーションを図る。
- ・身の回りのことを自分でしようとする意欲を育む大切な時期であると伝え、急がずに自分でしたいという気持ちに寄り添うことや扱いやすいものを用意してもらえるように伝える。
- ・一日の生活のリズム（起きる・食べる・寝るなど）が整うよう園と家庭が情報を共有していく。
- ・一人で過ごしていても心配しないように伝え、自分のペースで好きな遊びを楽しむことの大切さを伝える。

3歳児 1期

好きな遊び 見つけた！

4月当初、初めて集団生活を経験した子どもたちや3歳児クラスに進級した子どもたちも始めは緊張していますが、1ヶ月程たつとだんだんと表情が和らぎ、自分の好きな場所や遊びを見付けられるようになります。保育者や友達と、ブランコ、滑り台、砂遊び、園周辺への散歩などをしながら、保育者や友達と一緒に楽しいと感じ始めています。

【健康】

【戸外で遊ぶ心地よさを感じる】

春の日差しや風に誘われて外遊びをいっぱい経験すると、体の動きもしなやかに、心も伸び伸びとした楽しい気持ちになります。友達の姿がモデルとなって、着替えや手洗いを自分からやってみようかなという気持ちが湧いてきます。

【人間関係】

【身近な先生や気になる友達の顔を覚え、一緒に過ごす楽しさを感じる】

友達と一緒にだと、なんだか楽しい気分になってきます。“一緒に楽しい”と思う瞬間を「〇〇ちゃんと一緒にだね」と、保育者が言葉にすることによって顔や名前を覚えていきます。

【環境】

【春の自然の中で遊び、草花や小動物に触れる】

外に出ると気持ちが開放的になり、見つけた自然物（園の花や虫）やお散歩の風景（動物や電車など）に心惹かれます。春の自然に触れて興味をもったものに自ら関わることが主体的に遊びきっかけとなります。

【言葉】

【自分の思いやしてほしいことを表情や仕草で表す】

友達の楽しそうな様子を見て、「したい」「してほしい」という思いが生まれます。「〇〇できたよ」と自分の思いも言えますが、もじもじしたり離れて様子をうかがったりする姿があります。そのような表情や目で気持ちを伝えようとする姿を丁寧に受け止めていくと、安心して保育者に話すことができるようになります。

【表現】

【思いのままにかいたり、つくったりすることを喜ぶ】

保育者のすることに興味をもって、遊び出します。自分でやってみて、できたものを「見て見て、〇〇ができた」と伝えることを楽しむようになります。



【このコラムにおける保育のポイント】

- ・個人差を見極め、その子なりのペースで遊べる時間のゆとりや一人一人の生活背景を把握して、安心できることを見付けていくことが大切です。砂に触れることや固定遊具での遊びへの不安があるときには無理強いせず、保育者がモデルとなる姿を見せながら、遊びの楽しさを知らせます。
- ・まだ言葉に表せない内面の思いを理解し、「～したかったの？」と言葉にして丁寧に支えることによって、「この先生と一緒にいるのが好き」という気持ちを育むことが、心の安心、安定を生みます。不安だった新しい生活も保育者との温かいつながりによって、明日も楽しみに登園できる生活になっていくのです。

| 期／月 | | 3歳児 Ⅱ期（6月～8月） |
|--------|------|---|
| 期の特徴 | | 周りの様子や友達のしていることに興味をもってやってみようとする時期 |
| 子どもの姿 | | <ul style="list-style-type: none"> ・生活の仕方が分かり、安心して過ごせるようになってくる。 ・継2,3人の友達と一緒に遊ぶようになるが、自己主張してぶつかり合うこともある。 ・新興味のあることに集まり、思いのままに遊ぶ。 ・砂、水、泥などで大胆に遊ぶ子どもがいる一方で、興味はあるが、見た目や感触に敏感になり、抵抗を示す子どももいる。 |
| ねらい | | <ul style="list-style-type: none"> ・先生に支えてもらいながら、身の回りのことを自分でしようとする。 ・水や砂を使った遊びや全身を動かす遊びに興味をもち、感触を楽しんだり、開放感を味わったりする。 |
| 経験する内容 | 健康 | <ul style="list-style-type: none"> ・身支度や着脱など周りの友達の様子を見ながら、自分のペースでしようとする。 ・いろいろな素材の感触を味わったり、全身を使って大胆に遊んだりする。 ・先生の存在や楽しそうな雰囲気きっかけにして、いろいろな遊びの楽しさを知る。 |
| | 人間関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな遊びを、自分のやり方で繰り返し楽しむ。 ・先生や友達と過ごす中で様々な感情を体験しながら関わって遊ぶ。 ・継異年齢児の姿を見たり、関わりを通して憧れの気持ちをもったり、遊びを真似たりする。 |
| | 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・素材やものに関わって、見立てたり、つもりをもったりする。 ・夏野菜や自然の草花に興味をもち、先生と一緒に世話をしたり、収穫をしたり、匂いの味を味わったりする。 |
| | 言葉 | <ul style="list-style-type: none"> ・してほしいことや困ったことなどを、先生に言葉や態度で伝えようとする。 ・言葉の響き、繰り返しの面白さが感じられる絵本を喜んで見たり聞いたりする。 ・リズムのある言葉や心地よい言葉に共鳴し、使ってみる。 |
| | 表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・五感を通して感じたことを、擬音語や擬態語、体で表現することを楽しむ。 ・思いのままかいたり、かいた絵を見ながら先生に話したりすることを喜ぶ。 ・身近な小動物に関心をもって、様子を見たり、かわいがったりする。 ・いろいろな歌やリズム遊びに関心を示し、歌ったり踊ったりなりきって表現したりすることを楽しむ。 |

<保育のポイント>

- ☆一人一人の子どもの気持ちを受容し、自分の気持ちや考えを安心して表せるようにする。
- ☆可塑性、応答性のある遊びに取り組む時間をたっぷり取り、繰り返し自分のペースで楽しみながら、満足感や充足感が得られるようにする。
- 一人一人の子どもの世界観や楽しんでいることを十分に受け止めることで、安心して自分の思いを出すことができる経験を重ねる。
- リズムのある言葉や心地よい言葉を使っていくことが、人とのつながりになっていくことを意識して関わる。
- いろいろな素材に対しての興味のもち方や関わり方は一人一人違うので、個々のペースで十分楽しめるように材料の数や量、遊びの場の広さなどに配慮する。

<家庭との連携>

- ・友達との関わりが多くなるといざこざも増えるが、人との関わりを学ぶ大切な経験であると伝え、解決への道筋を丁寧に知らせながら安心して見守ってもらえるようにする。
- ・活動も活発になり、発汗も多くなる時期なので、園で配慮していることを伝えたり、家庭での過ごし方も聞いたりしながら保護者と園が連携し、一日を通して体調に配慮できるようにする。

小さなカップに水を移し替えたり、色水をジュースに見立てたりしながら、水遊びが始まります。保育者につくってもらった泥団子を見てつくり始めたり、そばでじっと、保育者や友達の様子を見て心を動かし、“面白そう”“やってみたいな”と、自分から遊び始めるようになっていきます。自分のペースでじっくりゆったり楽しめる環境の中で、自分で楽しさや面白さを見付け始めます。

【健康】【環境】

【いろいろな素材の感触を味わったり、全身を使って大胆に遊んだりする】

戸外で泥遊びや水遊びを存分に楽しみ始めます。開放感や感触の心地よさが、弾けるような気持ちの高まりとなって五感を刺激し、ダイナミックな動きを引き出します。

【人間関係】

【先生の動きや楽しそうな雰囲気を感じて、いろいろな遊びに加わる楽しさを知る】

水や泥などは、互いの気持ちをつなげる力があります。また保育者の楽しそうな動きや言葉掛けをきっかけに遊びに入ってくるようになります。大好きな先生に関わってもらいながら隣にいる友達と楽しさを共有することに心を弾ませ、みんなの遊びに加わる楽しさを感じていきます。

【言葉】

【してほしいことや困ったことなどを、先生に言葉や態度で伝えようとする】

「もう一回して！」「〇〇になってるねん」と先生に伝えたり、友達に「～やな」と話し掛けたりと、先生や友達との言葉のやり取りを楽しみ始めます。

【表現】

【身近な小動物に関心をもって、様子を見たり、かわいがったりする】

“洗濯ごっこ”など、お家の人のしていることを真似て遊びに取り入れることを楽しむようになります。「先生、見て見て」と先生に受け止めてもらうと、「もっとしたい」と次への意欲につながっていきます。



【このコラムにおける保育のポイント】

- ・周りの様子が見え始め、気になる〇〇ちゃんや好きな先生がしていることを見て、“わたしも（ほくも）やってみたいな”と気持ちを動かして、自分から遊びに向かう姿を大切にしましょう。“やってみたいけど…”と、少し抵抗がある時には、やり方を工夫したり、そっと支えたりするなどの配慮をして“やってみたら面白かった”“できた”という手応えが感じられるようにします。
- ・体も心も動かして開放感や感触の心地よさを友達と一緒に味わいながら、友達と同じ遊びを繰り返しできるように環境を整えましょう。また気持ちよさだけに終わらせず、体や言葉で表現する経験、いろいろな素材への興味の広がりなど、この期に必要な経験が重ねられるような工夫をしましょう。

| 期／月 | | 3歳児 Ⅲ期（9月～12月） |
|--------|------|--|
| 期の特徴 | | 園での生活が分かり、様々なことに興味をもって自分から関わる時期 |
| 子どもの姿 | | <ul style="list-style-type: none"> 大きな生活の流れが分かり、少しずつ見通しをもって、過ごすようになる。 友達のしていることに興味をもち、みんなと一緒にすることの楽しさを感じるようになる。 行動や遊びが活発になり、体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。 身近なものに興味をもって関わり、触れたり確かめたりする。 友達や先生に安心して関わり、自分の思いを伝えようとしたり、自由に表現することを楽しんだりする。 |
| ねらい | | <ul style="list-style-type: none"> 生活の大まかな流れが分かり、できることは自分でしようとする。 先生や友達との関わりに心地よさを感じながら、したい遊びを楽しむ。 先生や友達との共通体験をもとに「～のつもり」をもって、一緒に遊ぶことを楽しむ。 身近にある様々なことに興味をもち、自分から関わり、繰り返し楽しむ。 |
| 経験する内容 | 健康 | <ul style="list-style-type: none"> 安心して行動し、身の回りのことを自分でしようとする。 戸外でいろいろな遊具に触れて、体を十分に動かして遊ぶ。 自分のできることや頼まれたことなどを喜んでする。 |
| | 人間関係 | <ul style="list-style-type: none"> 遊具や用具の安全な使い方や片付け方を知る。 異年齢児のしていることに興味をもって見たり、真似たりする。 先生や友達のしていることに興味をもち、一緒に活動することを楽しむ。 |
| | 環境 | <ul style="list-style-type: none"> 季節の自然に親しみ、興味をもって見たり、触れたりし、遊びに取り入れる。 植物の生長や変化に興味をもち、喜んで見たり収穫したりする。 身近な素材や道具、遊具などに興味をもって繰り返し遊ぶ。 |
| | 言葉 | <ul style="list-style-type: none"> 見たこと、知っていること、思ったことなどを先生や友達に話して、受け止めてもらう喜びを感じる。 物語に興味をもちたり、先生や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しんだりする。 |
| | 表現 | <ul style="list-style-type: none"> 見たことやつくったものを見立てたり、自分なりのつもりをもって遊んだりする。 いろいろな素材や用具を使ってかいたり、つくったり、遊びに取り入れたりする。 音楽やリズムに興味をもち、音や体での表現を楽しむ。 |

<保育のポイント>

- ☆気候の変化の著しい時期なので、一人一人の体調を把握して必要な援助を行い健康に過ごせるようにする。
- ☆様々な行事に向けての取組では、不安を感じる子どももいるので、一人一人の気持ちに寄り添い、小さな「できた」という満足感を得られるよう丁寧に関わる。
- ☆自分の思いと違う存在に出会い、いざこざやすれ違いが多くなるので、何が嫌だったのか、どうしたかったのかを丁寧に聞き、相手の思いを知らせつつ、気持ちが落ち着くように関わる。
- いろいろな遊びや環境に興味をもって自分から関わろうとする姿を大切に受け止め、自分のペースで繰り返し楽しめるように必要な遊具や用具を整える。また保育者も同じことをしながら、何に面白さを感じているのかを捉え、楽しさに共感する。
- 保育者や友達のしていることに興味をもって集まってきたり、みんなで一緒に活動する雰囲気を楽しんだりできるようになってくるが、一人一人に応じた参加の仕方や楽しみ方を尊重する。

<家庭との連携>

- ・友達との関わりが広がってくる時期なので、日頃から園での様子を伝え、保護者の不安や悩みを丁寧に聞きながら、理解してもらえるようにする。
- ・自分でできることが増え、張り切っていたい気持ちと甘えたい気持ちの間で揺れ動く姿を励ましたり、手助けしたりしながら、温かく見守ることの大切さを伝える。
- ・感染症の流行しやすい時期なので、家庭でもうがいや手洗いを心掛けてもらい、今まで身に付いていた生活習慣が定着するようにする。

園での生活リズムが分かってくると、自分でできることやしたいことが増えてきます。そばにいる友達とつながって遊ぶようになり、思いを言葉にして表現することも多くなります。「誕生日ケーキをつくっているの」という友達の言葉から、自分が使いたい道具を選んで、それぞれがイメージしたケーキをつくることを楽しんでいます。「ピンポン」とインターホンが鳴ると「ガチャ、こちらどうぞ」など言葉のやり取りも楽しんでいます。

【健康】

【自分のできることや頼まれたことなどを喜ぶ】

「〇〇ちゃんのさら砂ふわふわするね」「たくさんさら砂がつくれたね」など、一人一人が繰り返し楽しんでいることを認めていくことで、自分の気付きや頑張りが喜びにつながり、自信をもって取り組むようになります。

【人間関係】

【先生や友達のしていることに関心をもち、一緒に活動することを楽しむ】

どんぐりをたくさんお皿に入れている友達の様子を見て、どんぐりのある所に駆け出していきました。友達のしていることを見て関心をもち、同じことを自分でもやってみようと動き出していきます。

【環境】

【身近な素材や道具、遊具などに興味をもって繰り返し遊ぶ】

子どもの力量に合った素材や用具、興味のある遊びを十分に楽しめるように準備しておくことで、子どもたちは夢中になって繰り返し遊ぶようになります。

【言葉】

【見たこと、知っていること、思ったことなどを先生や友達に話して、受け止めてもらう喜びを感じる】

「ケーキつくっているの」といった友達の言葉から「誕生ケーキ」「できたて熱々ケーキだよ」と自分のイメージを伝えながら遊びを楽しんでいます。

【表現】

【いろいろな素材や用具を使ってかいたり、つくったり、遊びに取り入れたりする】

さら砂を混ぜてケーキづくりをする子は、ふるいやフライパンを使っています。お皿にどんぐりをたくさん盛ってケーキに見立てている子は、お玉やボウルを使っています。

自分のイメージに合った思い思いの道具を使い分けながら、それぞれのケーキづくりを楽しんでいます。



【このコラムにおける保育のポイント】

- 様々な遊びや環境に関心をもち、自分から関わろうとしたり、友達への関心が高まったりしてきたことで、友達と同じ場で遊ぶ場面が多く見られるようになります。そういった姿を認めていくことで人と関わる心地よさを感じるようになり、友達に目を向けたり受け入れたりできるようになっていきます。
- この時期の子ども達は自分なりの世界に没頭して遊びます。保育者の一方的な想像やイメージで言葉を掛けるのではなく、その子の遊びや思いに沿った言葉を掛けていくことが大切です。

| 期／月 | | 3歳児 IV期（1月～3月） |
|--------|---|--|
| 期の特徴 | 自分の思いやつもりがはっきりし、友達と一緒にすることが楽しい時期 | |
| 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ・一日の流れがほぼ分かるようになり、自分から進んで行動しようとする。 ・気になる友達と一緒に遊びたい気持ちが強くなるが、思いがぶつかったり、出せなかったりすることがある。 ・ごっこ遊びの中で、なりきったり、自分のつもりを友達と楽しみながら遊んだりする。 ・4，5歳児に憧れ、大きくなることへの喜びや期待をもったり、小さい子どもたちに興味をもち世話をしたりする。 | |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・安定した気持ちで、喜んで生活する。 ・友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・興味のあることや経験したことを自分なりに表現する。 | |
| 経験する内容 | 健康 | <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことなど自分一人でできたことを喜ぶ。 ・お箸の使い方や正しい姿勢で座ることなどについて知り、自分なりにやってみようとする。 ・走ったり、跳んだりして思い切り体を動かす。 |
| | 人間関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・友達のしていることに興味をもち、真似たり一緒にしたりする。 ・分かりやすいルールや約束のある遊びを先生や友達と一緒にすることを楽しむ。 ・異年齢児との触れ合いの中で、憧れの気持ちを抱いたり、大きくなった自分を感じたりする。 |
| | 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・春の収穫を楽しみにしながら野菜を植える。 ・雪や氷など身近な冬の自然を見たり、触れたり、体で感じたりする。 ・ものや場所の使い方が分かり、安全に気を付けて遊ぼうとする。 ・遊んだ後の片付けなど、自分でできることや手伝いをする喜びを感じる。 |
| | 言葉 | <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるものの数や形、違いや順番などに関心をもつ。 ・正月、節分、ひな祭りなどの伝統行事や文化に興味をもつ。 ・先生や友達に自分の思ったことや経験したことを話したり、友達と一緒に聞いたりすることを楽しむ。 |
| | 表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や物語などに親しみ、想像しながら聞いたり、言葉のやり取りを楽しんだりする。 ・共通に体験したことを再現したり絵本などの話をもとになりきって遊んだりする。 ・歌ったり、体を動かしたり、リズム楽器を鳴らしたりすることを喜ぶ。 ・自分なりに思いをもって、かいたりつくったりする。 |

<保育のポイント>

- ☆自分で考え、自分で決め、自分で行動したい気持ちを汲み取り、安心して思いを表せるように個人差を理解して支えていくようにする。
- ☆友達とのいざこざに葛藤している時は、自分で気持ちを切り替え、立て直す過程に寄り添い、最後は楽しい気持ちを実感して終われるようにする。
- 2～3人で落ち着いて遊べる場と、いつでも誰でも出入りできる場を用意する。
- 場のイメージが共有しやすいように、目で見て分かる環境や、扱いやすい遊具や用具を用意し、自分たちでつもりを広げていけるようにする。

<家庭との連携>

- ・友達との思いのぶつかり合いを通して人との付き合い方に気付くことを伝え、園と保護者が共通理解できるようにする。
- ・自己主張や自立心が強くなるが、甘えたい気持ちもあるので温かく受け止めてもらうよう声を掛ける。
- ・保護者と一年間の成長を共有し、進級時の関わりのポイントを確認し合う。

大型積木で遊んでいると、いつの間にか電車ごっこが始まりました。そばで、人形で遊んでいた子どもも「乗せて」と仲間入り。遠足や買い物などに行った経験を遊びで再現することも楽しむようになります。時には、「自分のつもりと違う」「本当は〇〇したかったのに」と思いを出せなかったりする場面もありますが、経験したことを再現して遊ぶなど、気の合う友達とのごっこ遊びを楽しめるようになってきた様子が見られます。

【健康】

【身の回りのことなど自分一人でできたことを喜ぶ】

生活の流れも大体分かり、保育者に思いを受け止めてもらえるという積み重ねがあるので、安心して自分のしたいことや気持ちを出し、遊びでも生活でも「やってみよう」という意欲が膨らみます。

【人間関係】

【友達のしていることに興味をもち、真似たり一緒にしたりする】

遊具や場所を共有する中で、友達のしていることに心を寄せ、一緒にしたい気持ちが高まり、友達のイメージを受け入れて、同じ“つもり”をもって遊ぶことが楽しくなります。

【環境】

【身の回りにあるものの数や形、違いや順番などに関心をもつ】

積木の形をうまく生かし、友達とイメージを共有しながら遊んでいきます。いろいろな素材や用具との出会いから、形、大きさ、色や数にも興味をもち始めます。



【言葉】

【絵本や物語などに親しみ、想像しながら聞いたり、言葉のやり取りを楽しんだりする】

「ここ〇〇やで」「つぎは〇〇駅」など、自分の経験やお話の中の言葉を取り入れて、ごっこ遊びを楽しみ、友達とのやり取りも増えてきます。

【表現】

【共通に体験したことを再現したり絵本などの話をもとになりきって遊んだりする】

自分の経験を再現したり、“〇〇のつもり”になったりして遊ぶことが楽しくなってきます。自分のイメージで体を動かしたり、なりきって遊んだりして、表現する楽しさを感じるようになります。

【このコラムにおける保育のポイント】

- 様々な場面で自分のつもりを表出することが予想されます。それぞれの思いに寄り添って遊びにつなぎ、表現する楽しさが味わえるようにしましょう。
- イメージが共有しやすいように、お面をかぶったり、乗り物を一緒につくったりすると、友達同士思いがつながって遊びがより楽しくなります。一緒に遊ぶ楽しさを重ねていくことで、友達と思いがぶつかってもまた、「仲直りしたいな」という気持ちが育まれていきます。

